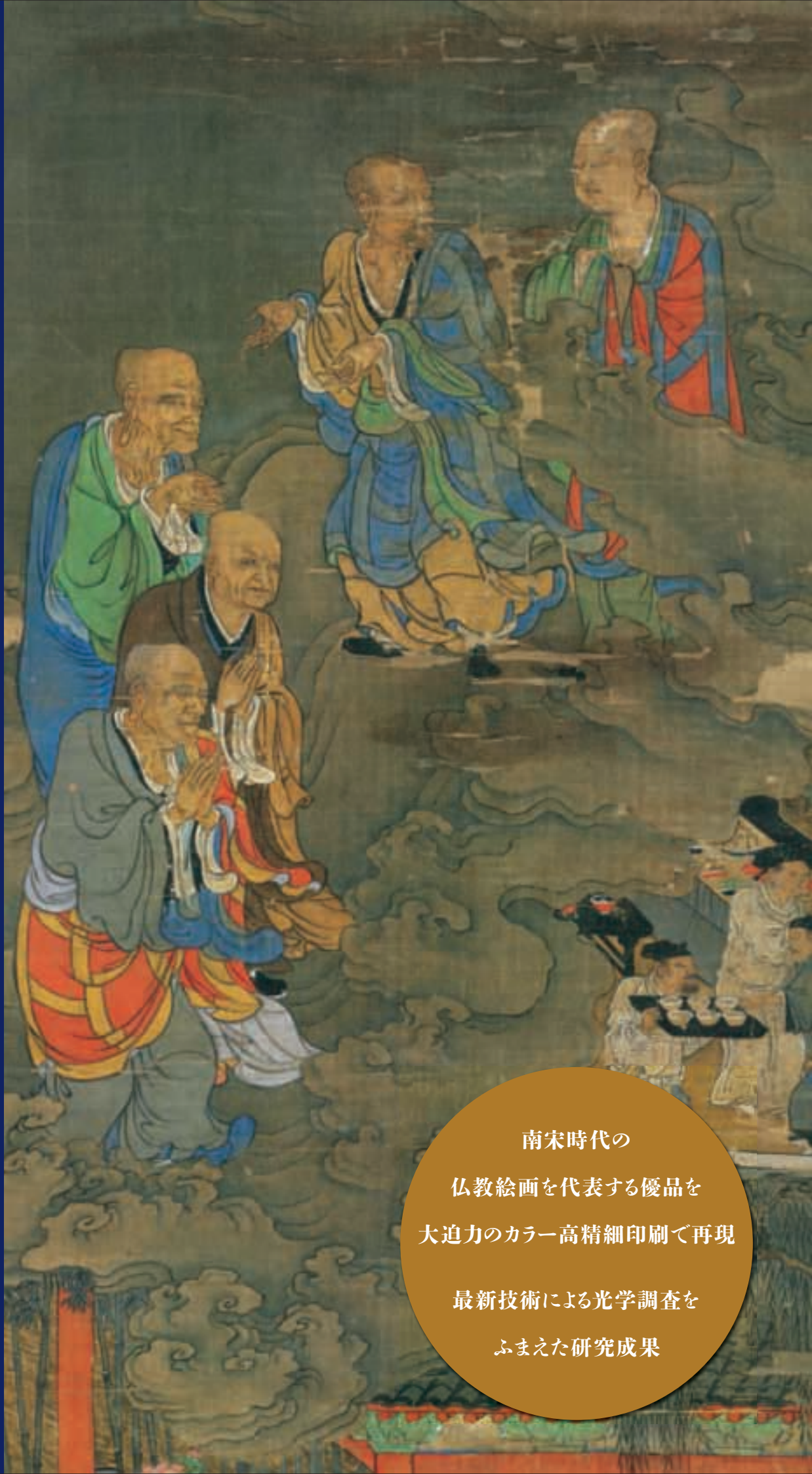


大徳寺伝来五百羅漢図

編

奈良国立博物館
東京文化財研究所

発売
思文閣出版



南宋時代の
仏教絵画を代表する優品を
大迫力のカラー高精細印刷で再現

最新技術による光学調査を
ふまえた研究成果

■大徳寺伝来五百羅漢図とは■

◎羅漢とは釈迦亡き後、弥勒が下生するまで釈迦の教えを護持するため涅槃にはいることなくの世にとどまる聖者で、時間を超越した生命、人智を超えた神通力を持つとされ、東アジア世界で崇敬の対象となってきた。

◎大徳寺所蔵の絹本著色五百羅漢図（重要文化財）は、中国浙江省寧波郊外の東銭湖畔にあった惠安院の僧・義紹の勸進により地元の有氏族の寄進を受けて制作され、林庭珪と周季常という二人の絵師が制作に関わった。

◎この五百羅漢図は、中国天台宗の発祥の地として知られる浙江省天台山の石橋に示現するという五百羅漢の信仰に由来する。五百人の羅漢の姿を濃厚な彩色と巧みな水墨技法によって描くもので、宋代仏画を代表する名品。「一幅に五人の羅漢を配する形で百幅に合計五百人の羅漢を描いている。画中に金泥銘文が記された画幅が相当数含まれ、南宋当時の施入者の姓名、居住地、目的、施入先、勸進僧、絵師名、施入年が判明する。

◎どのような経路で日本に伝来し現在に至ったのかは不明。元米、鎌倉の寿福寺ないし建長寺にあったものが、小田原北条氏に移り、豊臣秀吉の小田原攻めと北条氏滅亡の際に秀吉の手に渡り、秀吉が創建した方広寺を経て大徳寺に施入、現在大徳寺の什宝となっている。

◎豊臣秀吉が五百羅漢図を大徳寺に寄進した際に、百幅のうち六幅がすでに失われていたため、大徳寺住持であった天祐紹果が寛永十五年（一六三八）に絵師木村徳応に補作させる。

◎一八九四年、ボストン美術館のキュレーターであったアーネスト・F・フエロサが企画した「古代中国仏教絵画特別展」に展示された際に十幅が現地購入され、別ルートで海外へ流出した一幅がフリーア美術館に所蔵。

■本書の概略■

◎奈良国立博物館と東京文化財研究所による最先端の機器と技術駆使した光学的調査による共同研究プロジェクトの研究成果。文部科学省特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成―寧波を焦点とする学際的創生」（通称にんぶろ）などの調査成果も反映されている。

◎二〇二二年三月に刊行されたプロジェクトの調査報告書をB4判に増補改訂し、論文・参考資料を追加・加筆のうえ、高精細カラー印刷にて公刊。

◎最新調査をふまえ、研究者による論文八本、伝来史料・年表・関連図版など豊富な資料を収録。

《大徳寺伝来五百羅漢図》

B4判・上製本・カラーカバー装／312頁（うちカラー 248頁）

カラー部分は高精細 FM スクリーン印刷

定価：本体 50,000 円（税別） ISBN978-4-7842-1743-4

2014年6月刊行

読者対象
キーワード

中国美術史・日本美術史・仏教美術史・中国史・東洋史・
日本中世史・日中間関係史・寧波・海域アジア史・仏教史・仏教学・
仏教説話・茶道史・建築史



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町 355
tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723

http://www.shibunkaku.co.jp/
e-mail : pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊 数	冊	大徳寺伝来五百羅漢図 本体 50,000 円(税別) ISBN978-4-7842-1743-4			
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（この注文票を書店にお渡しください）				
	☐ 代 引（書籍代を現品と引き替えにお支払いください）				
				本書 HP の QR コード	書店番線印

中国・南宋時代の寧波周辺の地において、淳熙5年（1178）からほぼ10年をかけ、林庭珪・周季常という絵師により全 100 幅が制作され、うち 82 幅が大徳寺に伝来する「五百羅漢図」。卓抜した画技と豊かな彩色を誇る中国・南宋時代の仏教絵画を代表する名品として知られる。また画中に金泥で記された銘文の存在によって、かつて寧波周辺の寺院に伝来したこと、さらには絵師・施入者の名前が判明する点でも極めて貴重である。

奈良国立博物館と東京文化財研究所との共同研究の調査報告書を大幅に増補改訂し、論文・参考資料を追加・加筆のうえ、図版をより大きくし、高精細カラー印刷にて公刊する。

推薦のことば

■この十年来もつとも注目に値する■ 石守謙（元台北国立故宫博物院院長）

大徳寺伝来の五百羅漢図は早くに学界で知られていたが、本書の出版を通して、これらの貴重な作品が依然として非常に豊かな研究価値を内包していることに改めて気づかされるに至った。これまでの知識は、その一部分にしか過ぎなかったのである。失われてしまった六幅を除いて都合九十四幅が現存する大徳寺五百羅漢図は、当初の完備した全体像に最も近い姿で現存する宋代の羅漢図であり、羅漢信仰の中国の十二三世紀における発展状況を理解するための、最も直接的な資料を提供している。水陸道場で用いるためのこれらの作品は、当然ながら、「羅漢供」幅に見られる儀式、ひいては当時における仏教寺院の生活について、文献上では知ることのできない視覚的な記録を留めていることに主な意義が認められよう。今回の出版で他に注目されるのは、新開発の光学的な撮影手法によって、従来、知られていなかった画面上の銘文が、総計四十八幅から新たに発見されたことである。これらの銘文は、豊かな賛助者に関する資料を提供し、当時の寧波地方における士人文化の実際の活動を深く理解するための拠り所となり、今日の宋代文化史をテーマとする討論の手助けとなる。

これらの資料が将来に提供する豊かな可能性にかんがみると、本書は、この十年来の芸術及び文化史の領域におけるもつとも注目に値する出版物であるといえよう。

■待ち焦がれた研究報告書■

この度、独立行政法人国立文化財機構の奈良国立博物館と東京文化財研究所とによる共同研究プロジェクトチームが満を持して大徳寺伝来の五百羅漢図について版をB4の大きさで刊行することになりましたが、待ち焦がれた研究報告書だけに嬉しさも一人です。大徳寺本五百羅漢図が中国の南宋時代にあつて描いた画家が仏画家の林庭珪とその系統の画家及び周季常とその系統の画家であること、そしてその制作年代が淳熙五年（一一七八）から十五年（一二八八）のおよそ十年間で描かれたことが金泥の銘記から知られ、その具勝で豊麗な賦彩や逆に峻厳な墨法は日本の当代における絵画の展開を考える上で基準事例となりもつと重要視されてしかるべきでしょう。

報告書は高精細による鮮明な画像が紙面に大きく収められ、加えて部分図が加えられ、しかも羅漢図にはそれぞれ解題と内容の解説が附され、絵をみるものには至れり尽くせりで嬉しい限りです。さらに近年、基底素材である画絹の経緯がスケールを入れ七㎞×七㎞の正方形で撮影され、正確に画絹の本数が数えられるのも画期的で、今後の画絹調査の手本になるものでしょう。

本書に掲載される研究成果の一端を示す各論が、学際研究に裨益するところ大なるものと申すまでもありませんが、何はともあれ鮮明なカラー全図及び部分図をまずはみていただくことを強くおすすめしたい。



羅漢と鶴が対話しているようす。羅漢が右手で私子を奮うと、双鶴が頭を上下させて応じ、有髪の重行は、饑腹らしき食物を与えている。着色の竹林の表現は秀逸で、鉱物系と染料系の二系統からなる複数の緑色を使い分け、林立する竹の幹や節の色味を変化させて、適度なイリュージョンと爽快感を演出している。羅漢が手に執る四角い形状の団扇に墨竹を描いて対比させているのも興味深い。欄に渡された竹幹は、その乾燥したようすや丸味を帯びた形態までもが的確に表されている。林庭珪が、人物だけでなく、着色による自然景の表現にも習熟していたことを伝えている。銘文から、恵安院に近隣する尊教院の住僧による寄進であることがわかる。（一）

部分拡大図

重要箇所40点を拡大し、絵師ごとに並べた。

50% 縮小



■周季常系

78 紹興

絹目画像

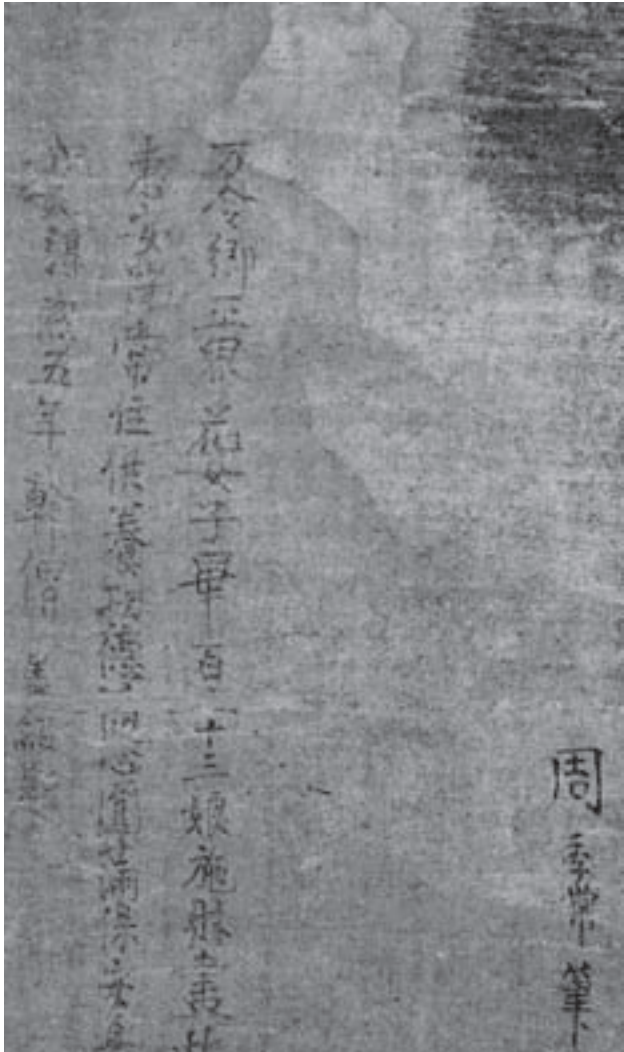
微細な画絹の状態まで明らかにする。



50% 縮小

銘文画像

目視では確認できない銘文を、最先端の光学調査により48幅に確認。その全てを可視化画像と翻刻で紹介。



60% 縮小

周季常筆

万令郷正界花女子畢百二十三娘施財畫此入
恵安院常住供養功德随心圓滿保安身位
戊戌淳熙五年幹僧義紹題

目次

ご挨拶

刊行にあたって 大徳寺
刊行にあたって 奈良国立博物館
刊行にあたって 東京文化財研究所

大徳寺伝来五百羅漢図

カラー全図

カラー部分図

銘文画像

銘文インデックス

絹目画像

画絹について 原瑛利子

関連作品 知恩院所蔵五百羅漢図・円覚寺所蔵五百羅漢図

各論

「大徳寺伝来五百羅漢図」共同研究の概要 谷口耕生

「大徳寺伝来五百羅漢図」銘文の可視画像化について 城野誠治

日本大徳寺伝来五百羅漢図銘文と南宋明州士人社会 近藤一成

大徳寺伝来五百羅漢図の成立背景（承前） 井手 誠之輔

関連年表

林庭珪と周季常、二人の画家とその傾向について 北澤 菜月

木村徳応筆五百羅漢図―失われた大徳寺本六幅をめぐる 谷口耕生

伝来史料 大徳寺五百羅漢図―その世界的な評価 ユキオ・リベット

資料

大徳寺伝来五百羅漢図 一覧表

銘文 一覧表

参考文献

共同研究の概要

A Summary of Collaborative Research on the Daitokuji 500 Luohans

中文目次・TABLE OF CONTENTS